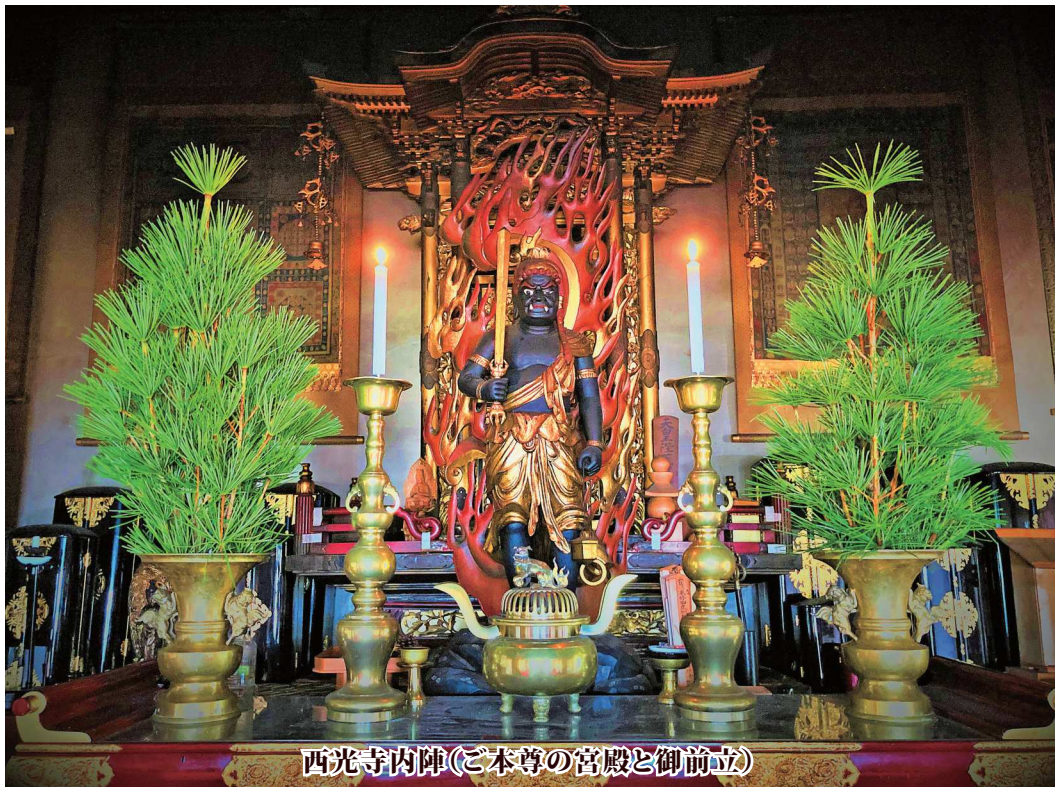


高野山真言宗
紫雲山菩提院
西光寺

四国三十三観音霊場
第2番札所
百八観音霊場
第41番札所



〒771-1702
徳島県阿波市
阿波町稲荷53
TEL 0883-35-2784
ホームページ
<https://saikouji.tokushima.jp>
発行所 西光寺
発行人 澤 善弘



西光寺内陣(ご本尊の宮殿と御前立)

8月15日 午後7時
先祖供養 仏送り護摩供

ご本尊と御前立

西光寺は、読んで字の如く、西方極楽、阿彌陀如来さまをご本尊としてまつるお寺で、正式名称を紫雲山菩提院西光寺と申します。

紫雲とは、紫色の雲のこと。阿彌陀如来さまが私たち迷える者を救いに来てくださることを「ご来迎」と申します。このご来迎の瞬間、紫色の尊い雲が現れることから紫雲山という山号となっております。

菩提院の菩提とは、「覚り・成仏」を示し、「くなられた方」としては阿彌陀さまが極楽浄土に導いてくださり、成仏に至らしめるご利益を示しております。

また、今を生きる私たちに対しては、様々なお説法を施して気づきを与えてくださいます。お説法は光であって風であって華であります。お大師さまも仰っております。お唱えするの「般若心経をお海を渡す筏也」と。生死の苦しみに暗い気

持ちで落ち込んでいくときに明るく導いてくださるのが、阿彌陀さまのお働き。「私たちが気付けば極楽はここにあり」とお諭しくださる阿彌陀さまのご利益が、菩提といふことです。

ご本尊は秘仏。宮殿の扉は閉ざしておりますが12年に1度の大法事(檀家の皆さまの過去諸霊の総供養)令和5年11月)にて御開帳の予定です。

御前立の不動明王さまは、大日如来さまが全ての徳を有したまま変化された仏さまです。右手の利剣で煩惱を断ち切り、炎で焼淨し、智慧に転じてくださる力つよい仏さまです。

毎月15日のご縁日には午前10時より護摩供を修法しております(8月は午後7時の仏送り)。特別に内陣にお入りいただけます。宜しければ、お参り下さい。※予約不要



見えない タスキ

真言宗にとつて重要な
お言葉があります。

『早く郷国に帰り、以つて国家に奉り、天下に流布して蒼生の福を増せ。然れば即ち四海泰く万人樂しまむ。此れ即ち仏恩を報じ師徳を報ず。』

（私が受持したものは全
てお伝えした。一日も早
く日本に帰り、伝授した
この密教を国家に奉呈し
国中に広め人々の幸せが
増すように祈りなさい。
そうすれば国家は平和と
なり、全ての人が喜びを
感じて生きることができ
るでしょう。そのような
世の中になることが、仏
さまの恩に報い、師匠の
徳に報いることです。）

これは、弘法大師空海
さまのお師匠さまにあた
られる恵果阿闍梨さまが
お大師さまに真言密教の
全てをお授けになった時
のお言葉です。密教の法
は、師資相承、脈々と受
け継がれてきました。

「受け継ぐ」という点
で熱いスポーツがありま
す。「駅伝」です。私は

走るのが好きで20年間親
しんで参りました。リレ
ー形式でタスキを繋ぎ、
長距離を走る競技です。

徳島には、今年で第67
回目を迎える「徳島駅伝
」という駅伝大会があり
ます。小学生から社会人
まで、男子女子の約30数
名が郡市代表としてタス
キをつなぎます。

前回出場したときのこ
とです。中学3年生の岡
田君という野球部の子か
らタスキを受けました。こ
中学生区間は3キロと短
めですが一生懸命に走っ
てきてくれました。

冬の寒空の下「阿波市
チーム準備して。」と呼
ばれ、ベンチコートを支
き添いの方に渡し、急い
で道路に出ます。岡田く
んの姿が見えました。あ
と2百メートルと迫って
きました。ラストスパー
トをかける岡田君。段々
近づいてきて、顔がはっ
きりとわかります。必死
の形相。口は苦しそうに
ねじれ、今にも泣き出し
そうな顔。動かない足の
分、必死に腕を振って前
へ前へと進んでいきます。

私は手を大きく振って
「岡田君！ラストー！」

と大声で叫びます。30m
20m、10m、5m、一瞬
のうちにタスキが私に繋
がれました。
「お疲れ！ようやくった！
」と声をかけ、私は走り
だします。

一般区間は約10キロ。
駅伝は、ゴールまでギリ
ギリもつ、目一杯のペー
スで走ります。中間地点
を過ぎる頃から、段々苦
しくなってきました。あと
半分もあるのか、と弱い
自分が出てきます。ここ
で心が折れずに踏ん張れ
るかどうかが、レースに
大きく影響します。

足は鉛が巻きついたよ
うに重たく、まるで地を
這うような感覚。肺も心
臓も限界や。もう辞めた
い、止まりたい。楽にな
りたい！との思いが脳内
を駆け巡ります。

今にも折れそうな私の
心を繋ぎとめるのが先ほ
どの岡田くんです。彼は
本当に苦しそうな顔だっ
たなあ。私と同じように
苦しかったんだらう。だ
けど、必死に堪えて走っ
てきてくれたんやなあ。
ハッ！と気がつきません。

岡田くんだけじゃない、
第1区のスラストから20
人の皆が必死の想いで繋

いできたタスキが、自分
の胸にある。そして、中
継地点では私を待つ仲間
がいる！そう思うと苦し
くても力を緩めることは
できません。1秒でも速
く、タスキを運ぶんだ！
自分の全部を出し切るん
だ！と奮いたせます。

ラスト4百メートル。
スパルトにならないスパー
ト。気力と腕で体を前
へもっていきまます。仲間
の姿が見え、胸のタスキ
を外し左手に握ります。
頭は左右にブレ、声が漏
れ、鼻水も出ていますが
拭う余裕はない。両手を
左右に開きタスキを広げ
渡した瞬間、道路の横へ
ドットと倒れこみます。

やっと、自分の役割が
終わりました。これが駅
伝です。駅伝は一人では
走れない。そこに気付け
た時、持てる最大限の力
が発揮出来るのです。

「人生は駅伝の如し」
人生には苦しく辛い場面
が沢山あります。つい立
ち止まってしまし、そう
な時もあります。しかし、
諦めるのはまだ早いのか
も知れません。

両親、祖父母、ご先祖
さまが家のため子のため

必死に働いて、それぞれ
の人生を死にもの狂いで
走ってきてくださった。
そのお陰で今がある。会
社や組織においても、必
ず先人たちのご恩を頂い
ています。

お世話になった方々の
三々、教え、想いや願い
技術：本当に沢山のもの
を私たちは胸に頂いてい
るはずで。これが「見
えないタスキ」です。

お大師さまのあのパワ
フルな生き方を紐解けば
見えないタスキが見えて
きませんか。

受け継がせて頂いたも
のに感謝をして、最期ま
で全力で駆け抜けること
が、また誰かのタスキと
なる。そのような生き方
こそ、先に生きた恩人へ
の究極の供養といえるの
ではないでしょうか。



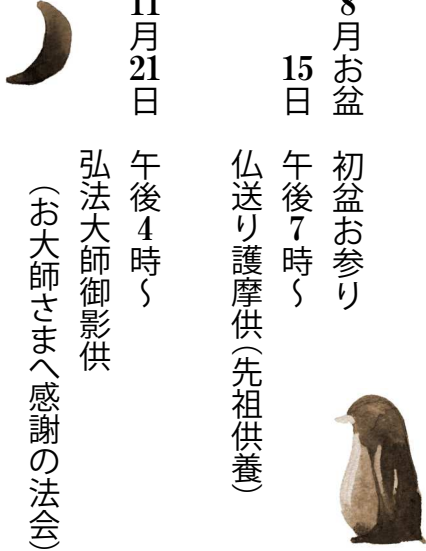
**令和3(二〇二二)年
お寺の行事予定**

8月お盆 初盆お参り
15日 午後7時〜
仏送り護摩供(先祖供養)

11月21日 午後4時〜
弘法大師御影供
(お大師さまへ感謝の法会)

12月31日 午後10時〜
納め護摩供
大晦日除夜の鐘

月並行事
○15日午前10時〜
ご本尊縁日護摩供
○第2土曜(昼)写経
○月2回水曜(夜)ご詠歌
※写経・ご詠歌休会中




ミニ灯籠

盆提灯

**先祖供養
仏送り護摩供**

お盆の終わりに護摩供を修しご先祖さまのご供養と仏界への無事のお帰りを祈りする法会「仏送り」を営みます。

夕闇の中、本堂にて浄炎が上がります。ご一緒に手を合わせてみませんか。



蓮の華



回転灯籠

**古い灯籠等の
供養を受付ます**

役目を終えた灯籠等を引取り、供養をさせていただきます。

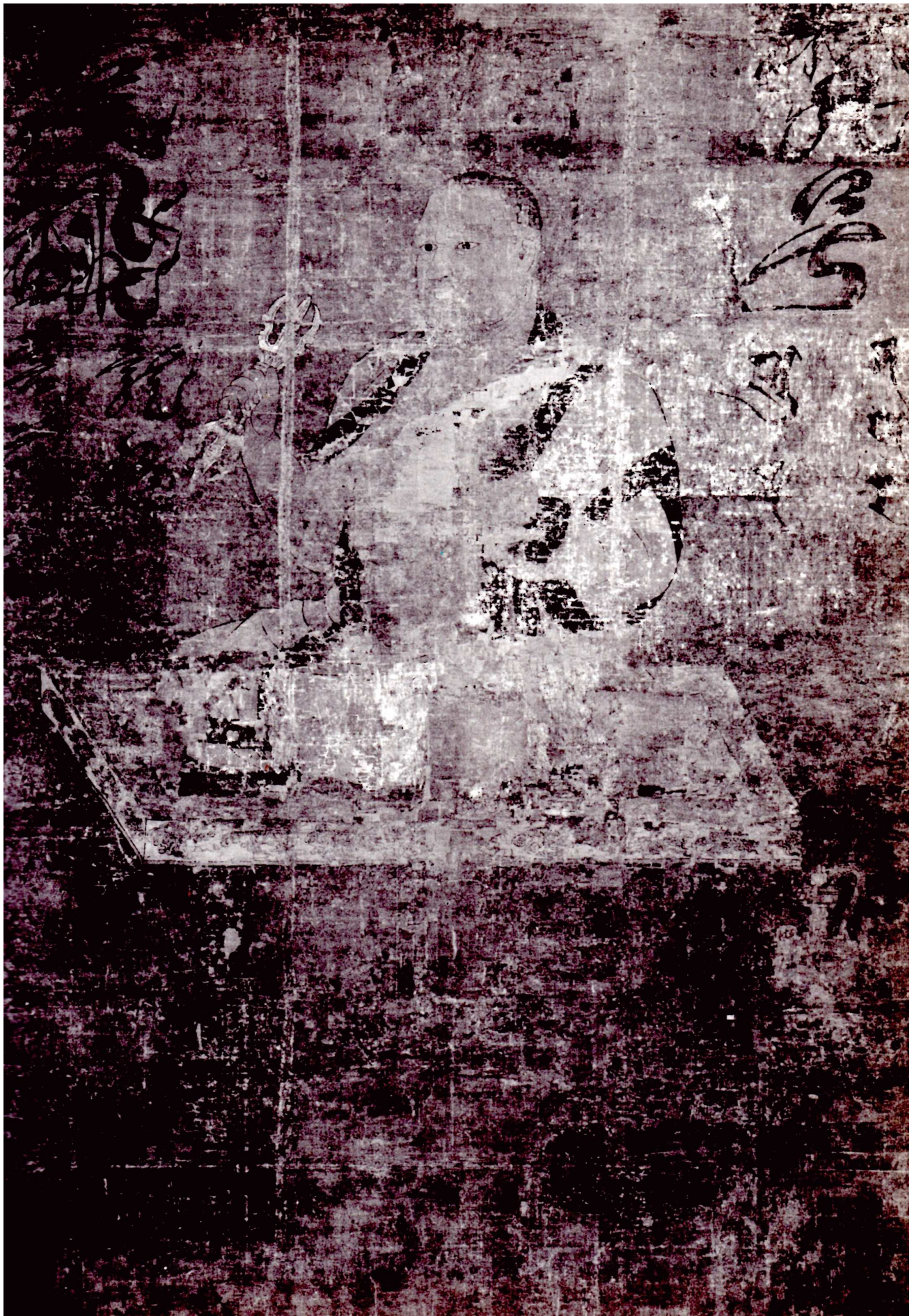
次回の灯籠供養の受付は、令和5年の予定となっております。



供養料の目安

先祖供養 (護摩木 1本) ……	300円	以上志納
盆提灯 (1ヶ) ……………	500円	〃
蓮の華 (1対) ……………	2,000円	〃
回転灯籠 (1対) ……………	2,000円	〃
ミニ灯籠 (1対) ……………	1,000円	〃

仏送り	8月15日(夜)
灯籠受付	18:00-19:00
法会	19:00-19:50
法話	(法会終了後)





真言七祖像賛並行状文

しんごんしち そぞうさんなまびにぎょうじょうもん

国宝 絹本着色真言七祖像 七幅

延暦二十四年(八〇五)―弘仁十二年(八二二)

頃

絹本 縦212.7 × 横150.9 cm

教王護国寺(東寺) 京都府

「漢翻 龍猛菩薩」部分

名号は、天竺人(今のインド人)である龍猛、龍智、金剛智、不空、善無畏には梵字と

号と行条文を空海が書いています。礼拝用の画像に描かれた真言七祖の肖像画の大幅の上部に祖師の名号を、下部に祖師の行条文を書くのが定まった様式であり、その名号と行条文を空海が書いています。

「梵号」部分

七祖像とは、真言宗の祖師と仰がれている龍猛、龍智、金剛智、不空、善無畏、一行、恵果の画像。この中で金剛智以下五祖の像は空海の在唐中に、空海の師である恵果が当時の第一級の宮廷絵師等十名余りに両界曼荼羅と共に描かせ、帰国する空海に持たせたものである。龍猛、龍智の像は後に描かれたもの。



書家 蒼空 田村 誠次

漢字名を飛白で書き、中国人である一行と恵果にはその漢名を行書で書いている。これらの書はすべて空海の書として古来から信じられてきたが、今日では一部は後世の書とされている。

「飛白」と言う書体は、中国の後漢時代に考案されたと伝えられる書体の一つで、その形状は刷毛で書いたようににかすれ、あたかも風に翻る薄絹の着物が飛動しているように見える。若くして書に心が深かった空海は、入唐中の多忙な期間にあっても、並外れた芸術的才能で以ってこの目新しい書風をしっかりと習得し、七祖像賛の名号を書く際、宇宙空間をつかむような感覚で書いた結果、飛白体で書かれたこの文字はまさに文字が大空を飛ばたいようであり、「天馬空を行く」といった表現にピッタリな書体と思う。



ところで、名号の下に小さく書かれた行状文は空海にしか書き得ない独特な筆運びの行書・草書を中心に、在唐中に習得したであろう隷書も加えた幅広い表現の書である。しかし、残念なことには破損が甚だしいため、解説が難しく完全な釈文が作成されないまま今日に至っている状況である。だが、見えづらいつながりも所々に散見し得るその書に目を凝らしてじっくり見てみると、細身ながらも力強いその線と空間を躍動する大きな動きに空海の書であることを確信する。

八祖大師さま

について

『真言七祖像贊並行状文』に関連して、ご紹介させて頂きます。

◎伝持の八祖

- ① 龍猛菩薩
- ② 龍智菩薩
- ③ 金剛智三蔵
- ④ 不空三蔵
- ⑤ 善無畏三蔵
- ⑥ 一行禪師
- ⑦ 惠果阿闍梨
- ⑧ 弘法大師

この8人の高僧たちを「伝持の八祖（でんじのはっそ）」といい、真言宗寺院では必ず本堂でおまつりします。

◎ 一般仏教と真言密教の教主の違い
※教主とは教えを最初に説いた人（仏）
《一般仏教》
お釈迦さま ← 説法
教えを説く
☆教主はお釈迦さま

《真言密教（真言宗）》
大日如来 → 感見
お釈迦さま
（覚者となられたお釈迦さまが、大日如来と一体となり説法。）
お釈迦さま || 大日如来 ← 説法
教えを説く
☆教主は大日如来

お釈迦さまが説かれたみ教えが仏教であるというのが一般仏教の見解です。
一方、真言宗では、大日如来という仏をはじめて感見された人物がお釈迦さまであるという立場を取ります。（大宇宙のはたらきを大日如来という仏としてとらえる）



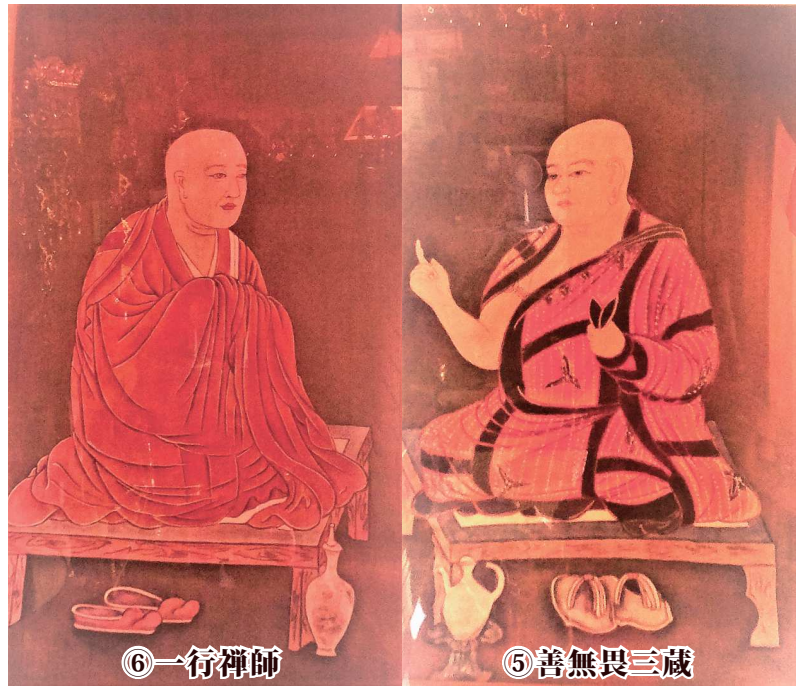
◎密教の法流

お釈迦さまご入滅の数百年後、龍猛菩薩が宇宙の象徴である大日如来を感じされ、金剛薩埵（こんごうさつた）という仏より教えを伝授されました。

これを、真言密教が世間に流伝した最初の出来事とみなします。龍猛菩薩によって真言密教の教えが深められ基礎が出来上がり、次第にインドに発展していききました。ゆえに、龍猛菩薩を真言密教の第1祖とします。

さらに数百年後、龍智菩薩が教えを引継ぎ金剛智三蔵に伝え、さらに弟子の不空三蔵に伝え、恵果阿闍梨に受け継がれました。

そして、恵果阿闍梨の正嫡（しようちやく）法門を悉く受傳する正統の継承者）となられたのが、我らがお大師さま（弘法大師空海）です。



⑥一行禪師

⑤善無畏三蔵

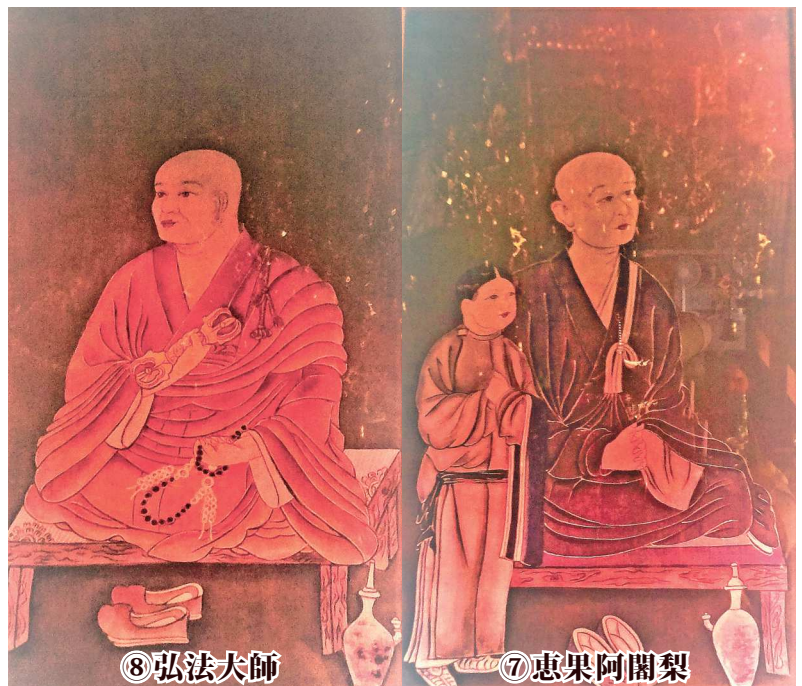
弘法大師の法流における正系の祖師ではないけれど、中国に真言密教を流伝し護持された善無畏三蔵と一行禪師という和尚さまを加えて「伝持の八祖」といいます。

「伝持の八祖」から善無畏三蔵と一行禪師を除き、大日如来と金剛薩埵を加えた法流を

「付法の八祖（ふほうのはっそ）」といいますが。①大日②金剛薩埵③龍猛④龍智⑤金剛智⑥不空⑦恵果⑧弘法

◎水瓶のこと
お祖師さまの御影（おみえ）の下部には、水瓶（すいびょう）水さし）が描かれます。

密教という偉大なみ



⑧弘法大師

⑦恵果阿闍梨

教えを水に、師匠と弟子を瓶という器に例えています。瓶の水をこぼさずに全て、別の瓶に注ぎ込むように、教えが完全に受け継がれたことを示します。

法流は弘法大師より50余代師資相承、途絶えることなく伝えられ密教の阿闍梨（住職）に至っています。

◎血脈のこと

「付法の八祖」の法流は別名「血脈（けちみやく）」いいます。ご葬儀は、仏の弟子になって頂く大切な儀式です。引導作法（いんどうさほう）の中で、お戒名と共にこの血脈をお授けし、阿闍梨の位にお導きさせて頂いております。

密教という偉大なみ

仏壇・仏具・神具・墓石・石材工事

ぶつだんのもり

お問い合わせ、ご注文は
☎(088)641-3222

■〒771-1155 徳島市応神町
西貞方字仁徳48-1 (応神店)



メガネ・補聴器・宝石・時計

ジュエリー サトウ

あなたの快適ライフを応援します。

阿波町大原11-1

☎(0883)35-2306



料理

魚安

営業日/ 月～日曜日
定休日/ 火曜日
営業時間/ 夜.17:00～

阿波町庚申原121

☎(0883)35-7260

各宗派葬儀・御法要・花環・籠盛等

セレモニーはやし

阿波町丸山3-2

☎ (0883)35-2073
FAX (0883) 35-2736

セレモニーホール

マルミヤ

(会館葬儀・自宅葬儀・寝台車・花輪)

市場町山野上字大西181-1

☎ (0883)36-7111
FAX (0883) 36-7035

広告募集中

『寺だより紫雲閣』
に広告掲載して
みませんか？
一樹のかげの雨宿り…
の如く仏さまのご縁を
頂けるかも知れません。(年2回程度550部発行)




ロープウェイでらくらく参拝

四国八十八カ所21番 四国八十八カ所66番

太龍寺 雲辺寺
こんびら奥の院 四国八十八カ所85番
箸蔵寺 八栗寺



編集後記

東京オリリンピックの代表選手やエンゼルス大谷翔平選手の活躍に活力を頂く毎日です。1月、先住弘榮師の第13回忌を営むことができました。先代の遺志を継ぐ紫雲閣も、復刊より第10号目となりました。社会は変革期を迎えておりますが、西光寺が檀家の皆さまの心の拠り所であり続けるよう、ご本尊さまの威光倍増を祈り、お寺の護持に努めて参りたいと思います。

寺だより紫雲閣について

お寺と檀信徒の皆さまを結ぶお寺だよりです。ご本尊のお徳とお大師さまのみ教えに触れていただきたく、住職が心を込めて手作りしております。

後継者の方が遠方におられる場合、2通目の郵送もさせていただきます。ご希望の方は、住職までお気軽にお知らせくださいませ。

8月15日 午後7時より

『先祖供養 仏送り護摩供』

護摩供を修し、ご先祖さまの無事のお帰りを願う法要です。灯籠供養受け付けております。

(詳細3頁)

※仏さまのご加護がありましようが、時勢を踏まえ、各々の責任と判断をもってご参加下さいませ。

